


A-3 問題深掘への「なぜなぜ5回(階)」 10:00 「もっと一生懸命」だけで問題はなくなる

株式会社 富士通アドバンスエンジニアリング
共通技術センター シニア・プロフェッショナル 小原 由紀夫 

【セミナーの狙い】

PMとメンバーは現場で「一生懸命活動」しているが、問題は発生する。原因の多くは現場にあるが、現場だけではない。一部の原因は、ステークホルダーにあるはずである。現場への「もっと、一生懸命」だけでなく、それぞれの対策を導く分析が必要である。

IT-SIG内WGでは、トヨタ生産方式(TPS)で適用される「なぜなぜ5回」について工場とICTプロジェクトの差異を踏まえ、深掘を分析し、体系化した。①問題識別、②なぜなぜ5回(階)、③真因の検証の3つのフェーズとこれを支える考え方を紹介する。

【セミナーコンテンツ】


1. 問題の深掘とは？、2. なぜなぜ5回(階)、3. 真因の検証、4. 問題の識別、5. 価値共有

【受講をお勧めする方】

1. ICT関連のPM、リーダー、2. ICT企業の経営層、部課長、3. TPSに興味がある方

【講師略歴】1983年富士通入社、出向、転籍を経て現職。20年間、日本の電機・自動車のグローバル企業の工場システム構築にベンダーのプロジェクトマネジャーとして参画した。グローバルPMメソッドを普及し、TPSのセミナーと実践支援をしている。PMP®、PMAJ会員、PMI会員、PMAJ-IT-SIG(TPS)に学ぶPM-WG主査。米国ケイデンスマネジメント社認定講師。

B-3 メンバーは作業員 OR 技術者？ 13:45 自立した中堅エンジニアの育成と協創の場を作る

有限会社デバッグ工学研究所 代表
PS研究会・代表 松尾谷 徹 

【セミナーの狙い】

既存の技術に基づくITプロジェクトのビジネスは、コスト競争とグローバル化が進んでいる。一方、エンジニアの労働市場が閉鎖的な日本企業は、過去の技術を持つ人材を抱え企業存亡の危機にある。

ここでは、2つの課題、「変化に向かって考え学ぶ自立したエンジニアの育成」と「変化に向かって知恵を出し合える協働の場としてのプロジェクト」をテーマに対策を考える。

【セミナーコンテンツ】

自立したエンジニア育成は、エンジニアとしての意志、経験の奥にある技術の原理・原則、客観的に他者に説明し合意を引き出すスキルなどの育成プログラムと実施例の紹介。協働の場は、エンジニアの社会貢献、技術選択の規範、後輩育成など、エンジニア・マインドの共有であり、そのプログラムと実施例の紹介。

【受講をお勧めする方】

中堅技術者の育成を考える方、PMOや技術・人材スタッフ、経営者

【講師略歴】1972年大手通信メーカーに勤務。汎用OSの開発に従事すると共に、中堅技術者研修(1年間)の講師、企画を行う。2000年にはモダンプロジェクトマネジメントアカデミーを設立し、技術を核とするPM育成を行った。2002年独立し、現職。明治大、東京理科大を経て、現在、法政大学理工学部兼任講師。ISO/IEC JTC1/SC7 WG26 Software Testing 幹事、博士(システムズ・マネジメント・筑波大)

A-4 クラウド時代のRFP作成実践法 10:00 ユーザ企業のクラウド戦略とIT調達力の強化

匠システムアーキテクト株式会社
代表取締役 前田 卓雄

【セミナーの狙い】

クラウド時代に突入しユーザ企業にIT/システムコスト削減機会が生じただけでなく、グローバルなクラウド環境・新アプリ・IT端末/システム機器を活用した新しい事業機会/ビジネスモデル創造機会が増している。

本セミナーではユーザ部門とIT/システム部門が協調・協働し、この両面の機会をどうすれば最大限活かせるか、そして自社のIT/システム調達力・運用力を強化・加速させるRFP(要求仕様書)をどうすれば円滑に作成できるかを中心にプロジェクト推進の要点を取り上げる。

【セミナーコンテンツ】

- ・クラウド時代に必要なRFP(機能要求・非機能要求・サービスレベル要求)テンプレート
- ・ユーザ企業に欠かせない要求創造工学と要求工学の概要

【受講をお勧めする方】

- ・ユーザ部門のIT/システム活用担当者、IT/システム部門の担当者
- ・クラウド/システム製品ベンダー提案担当者

【講師略歴】外資系コンピュータベンダSE、デロイトトーマツコンサルティングを経て独立。主に経営戦略と整合する情報戦略策定、ユーザ企業、中央省庁・自治体等でユーザ部門を主体にした個別プロジェクトRFP(提案依頼書、要求仕様書、調達仕様書とも呼ぶ)作成を支援、ビジネスモデル/RFPをベースにしたプロジェクト/プログラム/ポートフォリオ管理の推進、IT/システムを活用した競争力向上業務に従事。

B-4 PMの先にあるキャプチャーマネジャー 13:45 P2Mとの類似性に着眼した案件獲得のメソッド

シップレイジャパン株式会社
首席コンサルタント 北村 和彦

【セミナーの狙い】

プロジェクト・プログラムマネジャーが目指す姿として、キャプチャーマネジャーを掲げ、P2Mスキルの発展として、勝率の高いビジネスデベロップメントマネジメントについて解説する。

今日では、欧米においてスタンダードとなりつつあるキャプチャーコンセプトとP2Mとのフィロソフィーの類似性に着目しつつ、その概要を説明するとともに、メソッドのキーコンセプトについて、例示を交えて解説する。

【セミナーコンテンツ】

1. キャプチャーコンセプト概要
2. P2Mとのフィロソフィーの類似性
3. メソッドの基礎知識
4. メソッドのキーコンセプト解説

【受講をお勧めする方】

プロジェクトマネジャーとして活躍している方で、将来、ビジネス拡大を担う人材。PMの育成を考える人材開発担当者。ビジネスデベロップメント、組織開発担当者。

【講師略歴】1960年生まれ。慶応義塾大学法学部法律学科卒。アクセンチュアパートナー、セビエント株式会社バイスプレジデントを経て、独立。2002年 ドリームスキルパートナーズ設立。2009年 シップレイジャパン株式会社設立、2010年よりシップレイジャパン株式会社首席コンサルタントを務める。

A-5 アジャイル開発とプロジェクトファシリテーション 10:00 現場力を高めるモチベーションアップのツールと場づくり

株式会社チェンジビジョン代表取締役
株式会社永和システムマネジメント副社長 平鍋 健児

【セミナーの狙い】

昨今の日本でも知名度を増してきた「アジャイル開発」の概要を理解していただくとともに、それをプロジェクトマネジメントに応用した「プロジェクトファシリテーション」を提案し、日本の開発現場を、より生産的に、強制的に、そしてなにより楽しくしていきたい。

【セミナーコンテンツ】

近年のソフトウェアの短納期化・高品質化というビジネスニーズに答えた「アジャイル開発」。チームが情報を共有しながら課題解決するためには、さらなる現場力が必要である。

このセミナーでは、アジャイル開発の概要を説明した後、トヨタ生産方式からヒントを得た見える化手法を使って、現場のモチベーションを高めることで生産性を伸ばす「プロジェクトファシリテーション」を、実践方法を交えて紹介する。

【受講をお勧めする方】

経営層から、現場マネジャー、開発者まで。アジャイルの知識がない方でもご参加できます。

【講師略歴】UMLエディタastah*(旧JUDE)の開発等、20年以上のソフトウェア開発経験、うち10年のアジャイル開発経験をもち、開発現場をより生産的に、協動的に、創造的に、そしてなにより、楽しく変えたいと考えているコンサルタント。2008年には、アジャイルの普及活動への貢献を認められ、一年に世界で2名に与えられるGordon Pask Award 受賞。訳書「リーンソフトウェア開発」等多数。

A-6 修羅場を乗り切るPMの資質 10:00 プロジェクトの難局から学し、大きく成長する

プラネット株式会社
代表取締役 中嶋 秀隆

【セミナーの狙い】

プロジェクトでは、QCDの目標達成を求められ、プロジェクト・マネジャーには、修羅場であり、針のむしろである。しかし、プロジェクトで成功する人は、その難局を乗り切り、そこから大きく成長を遂げた人にはかならない。

ここでは、最新の心理学の知見「心の復元力」(Resiliency)の視点で、難局を乗り切る心のあり方を考えてみたい。

【セミナーコンテンツ】

心の復元力テスト、心の復元力とは何か、心の復元力の5段階、心の復元力を高める(いざという時とは、反応のいろいろ、セルフ・トーク、刺激と反応の間、復元粒子を蓄える、笑いと健康)、私の目標:パーソナルPMの視点(ビジョンの構造、現代人の7つの領域、25の目標のすすめ、運命がレモンをくれたら、プロジェクトの贈り物、など)。

【受講をお勧めする方】

難局を乗り切って成長したいと望む方。

【講師略歴】プラネット(株) 代表取締役社長。日本のPM研修・コンサルの草分け的存在。インテルでマイクロプロセッサの工場立上げプロジェクトに参画したあと、起業・独立。「PMプロジェクト・マネジメント」「世界一わかりやすいプロジェクト・マネジメント」など、多数の著書・訳書がある。最近では、「心の復元力」の紹介と、プロジェクトの記録を書き残そう(!)という活動に注力している。

B-5 プロジェクトマネジャーのための“Dress for success” 13:45 印象(装い)はビジネスの成功に直結します

株式会社パーソナルコンサルティング
代表取締役 イメージコンサルタント 鶏内 敏江

【セミナーの狙い】

プロジェクトマネジャーのあなたは“チームメンバーやステークホルダーからどう見られているか”“プロジェクトマネジャーとしてあなた自身がどのようなメッセージを発信しているか”を意識していますか? 私達は“人がどう見えるか”によって無意識・瞬時に判断し評価しています。「イメージマネジメント」は印象の3つの要素を最適化し、あなたの潜在的な可能性を広げ、成功指数を最大限に引き上げるツールです。外面・内面を整えてコミュニケーションの質を高め、個人や組織の関係性をよりよくする「イメージマネジメント」についてイメージコンサルタントをご紹介します。

【セミナーコンテンツ】

- ・自分を戦略的に可視化するイメージマネジメントとは
- ・魅せる伝わる自信がつく「プロフェッショナルな印象」のつくり方

【受講をお勧めする方】

- ・印象が重要視されるポジションの方
- ・印象づくり、自己改革、コミュニケーションや人間関係の活性化にご興味のある方

【講師略歴】全日本空輸(株)を経て、カウンセリング、接遇講師、人材育成に従事。国際イメージコンサルタント協会(本部:米国)所属イメージコンサルタント/産業カウンセラー/キャリアコンサルタント。外見・内面両面へ、カウンセラーならではのアプローチでキャリア開発、教育、メンタルヘルスなど幅広くイメージに関するコンサルティングを展開。個人、企業、学校等へセッション・セミナーを実施。

B-6 プロジェクトマネジャーの未来 13:45 プロマネの哲学と組織デザイナーとしての役割

アイシンク株式会社
代表取締役 伊藤 健太郎

【セミナーの狙い】

プロジェクトマネジャーの悩みや楽しみについて、様々な業種のプロジェクトマネジャーの哲学を基に検討していく。そして、これからの新しい創造的なプロジェクトをリードしていくのに必要な心構え、武器そして組織デザイナーとしての役割を考えていく。社会や組織を生き生きとさせ、人との関係性を良くする事ができるのは新しいタイプのプロジェクトマネジャーとチームそして良好なシステムが機能する組織である。これらについて検討していく。

【セミナーコンテンツ】

1. プロジェクトマネジャーの哲学(インタビュー事例)
2. プロジェクトマネジャーの悩み
3. プロマネの武器
4. 本当にチームなのか
5. プロジェクトを成功できる仕組みを作る
6. 組織のサポートの未来

【受講をお勧めする方】

プロジェクトマネジャー、プロマネ希望者、組織の責任者

【講師略歴】NKK(現JFE)にて、船用エンジンの製造、環境プラントの研究開発、設計、プロジェクトを国内や台湾、タイで実施。2000年にプロジェクトマネジメントに特化した総合的サービスを行うアイシンク株式会社を設立。著書として、「プロジェクトはなぜ失敗するのか」(日経BP社)、「プロマネはなぜチームを壊すのか」(日経BP社)、「狩猟型プロジェクトマネジャーの哲学」(生産性出版)等がある。